

佃幼稚園年度末学校評価自己点検・自己評価

本年度重点をおいた評価項目

(A：十分に出来ている B：出来ている C：取り組んでいるが成果が十分でない D：取り組みが不十分である)

評価項目	自己評価	結果と分析
教育課程・指導 教育要領の精神を踏まえ、園の方針に従い、指導計画・保育計画を作成する。	A	年度初めに、学年に分かれて一年間の指導計画の確認をし、各学期毎には、指導計画の振り返りと今後の計画の見直しを行ってきた。また、週に一度は週案会を設け、個々がたてた保育計画を話し合い、互いに共通理解をしてきた。
日々の保育と幼児への対応 幼児のみとりと理解を深め、日々の保育へ生かし、幼児の生活をよりよいものになるよう努力する。	B	教師一人ひとりが、日々の保育の中で子どもたちの姿から必要な環境や玩具を準備するよう努力してきた。また、子どもの様子を学年でアドバイザーを含めて話し合いを設け、子ども理解へ努めきた。しかし、経験の浅い教師も多く、子どもへの捉え方が困難な姿も見られた。
教師としての資質や能力、良識、適正 専門家としての能力やマナーを身に着け、組織の一員としての在り方を心がける。	B	笑顔を欠かさず、絶えず子どもの目線に下りて保育するようにしてきた。また、身だしなみや保護者への対応なども意識し、教師間で伝え合うなどしてきた。しかし、一方で経験が浅い教師も多く、うまく報告が伝達できなかったり、子どものかかわり方が難しく、保護者からの指摘もあり、能力向上が必要であった。
特別支援 個々の園児に対応した指導計画・支援計画の作成を行う。	B	個々の園児に対応した指導計画を立て、作成してきた。会議や朝礼などを利用し、配慮を要する園児への対応の仕方を教師間で共通理解してきた。しかし、作成は副園長と担任のみとなり、具体的な援助の仕方や対応に対し、園全体での話し合いがもてなかった。
研修・研究 園内・園外とも、今日的課題に関する研修・研究に取り組む。	A	園内での研修では、音楽やリズム体操、子ども理解(カウンセリング)などを利用し、教師間で意見を出し合い、考え方の共通理解や技術の習得に努力してきた。また、園外研修に参加したあとは、紙面での報告を必ず行い、全教師が把握できるようにしてきた。

次年度への改善点

○幼児の見取りや保護者への対応など、まだまだ未熟な教師がいる。自らそのことに気がつき、他の教師の仕方を学ぶと共に、経験年数の多い教師は、指導を丁寧に分かりやすく行う必要がある。相談・報告ができる教師間を作っていく。

○特別支援では、指導計画の作成をよりよいものにするとともに、園全体で話し合う時間を設けていきたい。

○園外研修では、紙面での報告だけでなく会議を利用して報告し、より詳しく教師間が共通理解できるようにしていきたい。